

Acta Epsilonica

Online First, Pages 1–3.

Received: December 3rd, 2015, Accepted: January 22nd, 2016.

Acta Epsilonica 用スタイルファイルの使い方 (ver. 1.4)

田中未来*

概要

Acta Epsilonica 投稿用スタイルファイルの使い方について簡単に説明します。

キーワード: L^AT_EX.

1 スタイルファイルの使い方

Acta Epsilonica に投稿するための原稿は `tex` ファイルを用いて執筆して下さい。また、その `tex` ファイルの冒頭では `\documentclass[11pt]{jsarticle}` のようにクラスファイルを読み込んで下さい。また、スタイルファイルを読み込むために、プリアンブルで `\usepackage{actaepsilonica}` として下さい。

この `tex` ファイルには 2 箇所には `% DO NOT EDIT FROM HERE` と `% TO HERE` で囲まれた部分があります。この部分は編集しないで下さい。

`\TITLE` コマンドの引数は原稿の題目として下さい。`\AUTHOR` コマンドの引数は著者名として下さい。著者が複数に渡る場合は `\and` で区切って下さい。著者名はヘッダにも現れます。もし、著者名が長すぎてヘッダが 1 行に収まらない場合は `\AUTHOR[寿限無]{寿限無寿限無}` のように短い著者名をオプションとして下さい。著者が複数にわたる場合は第 1 著者名に続けて *et al.* と記入するのもよいでしょう。また、それぞれの著者の所属や連絡先などを `\thanks` コマンドの引数として下さい。キーワードを `\KEYWORDS` コマンドの引数として下さい。概要を `\ABSTRACT` コマンドの引数として下さい。ただし、随筆や文学作品の場合は概要やキーワードは必ずしも必要ではありません。

なお、スタイルファイルを読み込むときに、`\usepackage[onlinefirst]{actaepsilonica}` として `onlinefirst` オプションをつけると、Volume と Number が消えて Online First と表示されます。これは、受理された原稿で、どの Volume のどの Number にも割り当てられていないものを

* 東京理科大学 理工学部 経営工学科, mirai (at) rs.tus.ac.jp.

ウェブで公開する場合に使います. 同様に, `notitleheader` オプションをつけると, 1 ページ目のヘッダが消え, `noheader` オプションもつけると 2 ページ以降のヘッダが消えます. これらを両方つけると *Acta Epsilonica* つぼさがほぼ消えます. `combinednumber` オプションをつけると 1 ページ目のヘッダの Number が Numbers に変わります. これは合併号を発行する場合に使います. なお, 1 ページ目のヘッダの Pages はページ数が 1 ページのときは自動的に Page になるはず¹. また, `noabstract` オプションや `nokeywords` オプションをつけると, それぞれ概要とキーワードの欄が消えます. 随筆や文学作品を投稿する際に使用して下さい.

次の節では `actaepsilonica.sty` で使われているスタイルファイルを列挙します. これらと干渉しないスタイルファイルは自由に使って構いません.

また, このサンプルの末尾に参考文献リストのサンプルを載せておきます. 必ずしもこのフォーマットに従う必要はありませんが, 参考にして下さい. もちろん, `bibtex` を使っても構いません.

2 `actaepsilonica.sty` で使われているスタイルファイル

`actaepsilonica.sty` で使われているスタイルファイルは以下の通りです:

- `geometry.sty`: 版面の寸法を決めるもの.
- `fancyhdr.sty`: ヘッダの様式を決めるもの.
- `newtxmath.sty`, `newtxtext.sty`: フォントを Times 系にするもの. 数式はこんな感じになります:

$$\frac{\pi}{2} = \left(\int_0^\infty \frac{\sin x}{\sqrt{x}} dx \right)^2 = \sum_{k=0}^\infty \frac{(2k)!}{2^{2k} (k!)^2} \frac{1}{2k+1} = \prod_{k=1}^\infty \frac{4k^2}{4k^2-1}. \quad (1)$$

円周率を表す文字を斜体の π ではなく立体の π にしているのは個人的な思想なので無視しても構いません. 著者の思想に任せます.

3 更新履歴

- ver 1.0: 公開.
- ver 1.1: 細かいバグの修正.
- ver 1.2: `onlinefirst`, `notitleheader`, `noheader` オプションの実装.
- ver 1.3: `combinednumber` オプションの実装と細かいバグの修正.
- ver 1.4: `noabstract`, `nokeywords` オプションの実装.

謝辞

Acta Epsilonica 創刊にご尽力下さった山下弘一郎さんに感謝いたします.

¹ このあたり buggy です. Bug を発見したら教えて下さい

参考文献

- [1] M. AIGNER AND G. M. ZIEGLER: *Proofs from THE BOOK (the Fifth Edition)*, Springer, 2014.
- [2] A. WILES: Modular elliptic curves and Fermat's Last Theorem, *Annals of Mathematics* **141** (1995) 443–551.
- [3] 山下弘一郎: 数学 —怒りと叛逆の LIVE— トンガレ *Middleteen Ager!*, 河合出版, 1997.